

中学生必死に介抱



「下で声がするぞ」
3月11日午後6時半ごろ、戸倉中に隣接する時計部品製造会社。避難していた住民がうめき声に気付いた。

倒れていたのは、南三陸消防署の及川淳之助さん(57)。住民らは社内に運び込み、畳敷きの部屋に寝かせた。

「体は冷たく、低体温に近い。意識もはつきり

ていた志津川公民館長の須藤清一さん(60)は振り返る。

会社には戸倉中から避難した生徒約70人や教職員もいた。すぐ養護教諭らが服を脱がせ、マッサージを始めた。3年生だつた後藤大地君(15)、2年だつた佐藤裕君(15)、須藤翔也君(15)も介抱に加わった。

「人間カイロ」
宮城県PTA連合会から「善行・篤行児童生徒表彰」を受けた戸倉中の生徒たち[12日、宮城県加美町の中新田バッハホール]が足をきずつた。

3人は着ていた制服を脱いで半袖短パン姿になつた。及川さんを温めるため、挟み込むように2人がくつつき、残る1人も生きた。戸倉中は2年生を対象に、人工呼吸や心臓マッサージなどの救命講習を実施している。沿岸部では、救命の場面につづけた。横にくつつきながら、必死に体をきずつた」と語る。

約1時間後、意識を取り戻した及川さんは、周囲の声が忘れられない。「ここで死んでられないんだからね！」

及川さんが救助される約3時間前。津波は標高約15メートルにある戸倉中庭に押し寄せた。校庭にく2年生の小野寺翔君(15)も加わり5分間、心臓マッサージと交互で続けた。

5人善行表彰

救命活動に携わった戸倉中の5人は12日、宮城県加美町の中新田バッハホールであつた県PTA連合会の復興会議で、「善行・篤行児童生徒表彰」の賞状を受け取った。

現在、石巻工高に通う後藤大地君は「子どもだから自分たちも何かしながら、命を救つてくれた生徒に感謝しながら思う。助け合う心を大切に持ち続けてほしい」

日ごろの救命講習羽白実る

生を対象に、人工呼吸や心臓マッサージなどの救命講習を実施している。

2年生だつた三浦貴裕君(15)はおぼれた男性に人工呼吸を始めた。喉の気道を開け、鼻をつまんで息を吹き込んだ。「夢中だったが、講習を覚えた。

及川さんは今、南三陸消防署の指揮隊長兼当直司令の任に就くが、地震があると動悸(どうき)

おぼれた住民を引き上げていた佐藤裕君、同じく2年生の小野寺翔君(15)も加わり5分間、心臓マッサージと交互で続けた。

消防署の指揮隊長兼当直司令の任に就くが、地震があると動悸(どうき)があると動悸(どうき)がし、不安にかられることがある。

消防署の指揮隊長兼当直司令の任に就くが、地震があると動悸(どうき)があると動悸(どうき)がし、不安にかられることがある。

「仲間を失つたショックが影響しているのかもしない」。だからこそ、命を救つてくれた生徒に感謝しながら思う。